

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	01	女性活躍推進事業		目標年度	令和6年度					



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	男女共同参画の推進に伴い、女性の就業率等が向上してきているが、子育て中の女性など、仕事のバランスに不安の声は多く、女性の心の面やライフデザイン等に寄り添った支援がこれからも必要である。					
対 象	市民					
目 的	美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「カミーノ」のひとつとして掲げる「自分らしく生きられる」ことの実現を目指し、仕事をがんばる人も、子育て中の人にも、それぞれのステージで自分らしくイキイキと自分の人生を歩んでもらえることを応援する。 笑顔でいられる、輝ける、夢を叶えられるよう一歩踏み出す人の増加を図る。					
概 要	・みのかも女性活躍支援センター「Re:Ola[リオラ]」の運営。 R1.1「みのかも健康プラザ」へ移転したリオラを活用したサービス提供を実施。 ・キャリアデザイン、キャリアアップ等のセミナー、相談の実施。 ・カミーノ推進プロジェクトの実施。					
事 業 費 (千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	3,969	5,058	3,365	3,837	2,736
	決算額	2,281	3,746	1,861	3,205	2,601
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		50 / 3,300				



実 績	実 績	・みのかも女性活躍支援センター「リオラ」の運営 ・リオラで行う講座の企画実施 ・「働く女性のためのキャリアアップセミナー」 リオラ来訪者数 1,853人 リオラ講座受講者数 287人
	効 果	女性活躍支援センターの運営、セミナー等の実施により、働くことや子育てなど、女性を取り巻く課題に対し、少しでも不安を解消することで生き生きと暮らす、働くことにつなげることができた。 「女性活躍支援センターを利用及び講座を受講したことで、気持ちや意識に良い変化があった人の割合」を数値目標とし、その先の行動に向けて一緒に考えながら、自分らしくイキイキとした生き方・働き方の実現を後押ししていく。女性活躍支援センター利用者および講座受講者満足度99%（前年度比+1ポイント）主な利用者年齢層（30～40代）に加え、50～60代といったシニア層の利用も増加。どの年齢層からも高い満足度を得られている。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	女性活躍支援センター相談件数	目標値	150	150	150	180	190
		実績値	191	245	257	204	192



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	女性活躍支援センター利用者及び 講座受講者等満足度（％）	目標値				90	90
		実績値			96.6	98.4	99

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和5年度と比較し、大きな減少ではないため、確かな原因といえるものはないが、各種相談において、専門相談メニューが固定化されてきているため、メニューの見直しを行っている。就労支援により、16名の就職が決定した。また、講座において、参加者が好きなことや得意なことをみつけ、心身の充実や仲間づくりにつなげることができた。働く女性を対象としたキャリアデザインセミナーでは、市内企業に勤めるロールモデル協力のもと、ライフイベントに影響を受けやすい女性が、社会の変化をとらえ、心身共に健康でいくつになってもイキイキと働き続けるために自分のキャリアを主体的に設計、実現していくために必要なスキルを学び、女性同士のつながりを育む場となった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	アンケート等でニーズを図りながら事業を行っているため、目標を達成できている。
	実績からR07年度の 事業の方向性	既に働いている人の相談の場として、土曜日のキャリア相談を実施し、離職減にむけての取り組みの一歩とする。また、ハローワークと連携し、就業継続、再就職に関する取り組みの強化を図る。 「おでかけリオラ」と称し、リオラ以外の場所に出向いて講座やセミナーを行う、また市内事業所と協力したイベントの開催等を通じて、幅広い年齢層にターゲットを広げ、より多くの人にリオラを活用していただけるよう働きかける。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6 つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	02	地域教育推進事業		目標年度	令和6年度						



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	学校以外での学習支援や居場所づくりが地域の課題としてある。特に小学校低学年は学習支援ばかりでなく同学年の他校の児童と交流することも重要な活動となる。					
対 象	小学校低学年（1年生～3年生）の子ども達					
目 的	小学生低学年を対象とした学習支援や居場所づくりのための事業。また、学習支援ばかりでなく同学年の他校の児童と交流することにより社交性や行動力を養うことを目的とする。					
概 要	地域教育コーディネーターを配置して学校と地域との連携を図り、小学校低学年の児童を主対象に地域資源をいかした地域教育推進事業（楽習ひろば）を実施します。 【楽習広場】 ・生涯学習センター教室、加茂野教室、牧野教室の3か所 ・学習活動（漢字検定、英語活動、科学実験など） ・校外学習（アクアト、サイエンスワールド、化石学習、名古屋市科学館） ・地域学習（昔あそび、栗きんとんづくり、蜂屋柿づくりなど）					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,565	4,359	4,484	4,251	4,251
	決算額	2,458	2,886	4,473	4,251	4,251
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		705 /				4,330



実 績	実 績	生涯学習センター教室延べ参加者数1,427人 加茂野交流センター教室延べ参加者数1,075人 牧野交流センター教室延べ参加者数1,197人 参加者合計3,699人 地域学習...読み聞かせ、昔遊び、座禅、茶道等の地域ボランティア団体を講師に迎えた活動。 校外学習...アクアト、名古屋市科学館、瑞浪市化石博物館、サイエンスワールド等施設での見学、体験学習。
	効 果	年間に多くの子どもたちが参加して、同学年の他校の児童と交流することができ、社交性や行動力を養うことができた。 講座終了後に行うアンケートにおいても来てよかったという声が多い。 また、学校に行くことが困難な子どもたちがここには来れるという保護者からの声も届いており、安心してすごせる居場所として効果をあげている。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	グループ活動（館外学習）回数	目標値	15	15	12	13	14
		実績値	0	9	15	15	16



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	地域教育推進事業「楽習ひろば」参加者数（年間延べ人数）	目標値	5,000	5,000	3,000	3,500	3,800
		実績値	2,991	2,757	4,350	4,166	3,699

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	館外学習のグループ活動も予定通り実施できた。 名古屋市科学館・アクアト・サイエンスワールド・化石博物館などに 出かけており、参加率も高かった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	公的な事業（選挙など）がある場合、場所が使えなくなり中止とすることがある。登録人数が136名のため2回中止となると延べ人数が約270人減する。 また、今年度は昨年より登録人数が4名少ないことも影響している。
	実績からR07年度の 事業の方向性	順調に事業が実施できるようになっているため、引き続き目標を上回る活動となるよう事業内容等工夫して進めていく。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					目標値	500人 40.0%	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を									
小事業	01	生涯学習活動推進事業		目標年度	令和6年度							

イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	生涯学習機会の充実をはかることによって市民の学習欲求を満し、市民の皆さんが生きがいを持って暮らしたり、自己の知識や技術を地域に還元したりできる「生涯学習社会」の構築の機会が必要とされている。					
対 象	市民					
目 的	生涯学習機会の充実をはかることによって市民の学習欲求を満たすことができ、市民の皆さんが生きがいを持って暮らしたり、自己の知識や技術を地域に還元したりできる「生涯学習社会」の構築を目的とする。					
概 要	・講座企画：市民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、様々な講座を企画する。 「市民企画講座」 「まちづくり出前講座」 「交流センター講座」 ○社会教育視聴覚協議会への委託 ・ファミリーシネマの会 ・土曜映画会 ・各種撮影会（成人式など）					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,850	2,690	2,671	2,748	3,324
	決算額	77	685	968	2,194	2,245
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,008 /				358

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	生涯学習施設開催講座数	目標値	110	60	60	60	60
		実績値	0	54	48	61	60

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	生涯学習施設開催事業参加者数（生涯学習センター分）	目標値	9,000	1,500	1,500	8,000	4,000
		実績値	2,992	1,146	2,128	3,520	4,108



実 績	実 績	・市民企画講座（60講座、546人） ・まちづくり出前講座（72講座、1,761人） ・土曜映画会（11回、94人） ・ファミリーシネマの夕べ（9会場、176人） ・生涯学習施設開催事業参加者数（生涯学習センター分）4,108人
	効 果	60講座定員10名に対し91%である、546名の申し込みがあったことから、「学びたい」「始めたい」意欲が高まったところに適切に学習機会を提供することができた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	企画された講座の内容に関心が高いため申し込みが多い。特に人気のある講座については、抽選となり、キャンセル待ちも発生した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	KPI目標値については、R6年度から講座の開講率等を鑑みより現実的な目標値（60講座（各10回、定員10人）に対して3分の2の充足率）に修正した。市民が学びたいと思う内容の講座が開講されているため目標達成した。
	実績からR07年度の 事業の方向性	新規の講師の充実を図り新たな講座の開講を目指すと共に、募集した講座の開講率を高めるため、募集広報等充実させる。受講生の声やアンケート調査を基にニーズを把握し、ターゲット層に合った講座を企画する。SNSを活用して講師募集を広く行い、既存の講師に新たな候補者の紹介を依頼する。また、他の事業で関わりのある講師に新講座の趣旨を伝え参加を促すことで、信頼性の高い人材を集め充実を図る。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6 つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を								
小事業	04	若者と未来をつなぐ事業		目標年度	令和6年度						



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	少子化である現在、若者が地域に関わる機会も少なくなっている中、若者が地域に役割を持ち、また若者の視点で地域課題の解決に取り組む機会をつくることは、若者が美濃加茂市に住み続け、またふるさとを愛する心を育むことに繋がり、未来の美濃加茂市を作るうえで非常に重要である。					
対 象	青少年（小学生・中学生・高校生）、20代を中心とした青年層					
目 的	若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援し、若者の活躍を通したひとづくりを目指します。					
概 要	若者の活躍を通したひとづくりを推進するため、若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援します。 ・地域活性化スクールの運営及び高校生の活動支援 フィールドワークやワークショップを通して、若者に新たな気付きや学びのフィールドを提供するもの。 ・STEAM教育 若者を対象に、地域と関わりを持ちながらSTEAM教育を展開します。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	6,387	6,426	8,011	5,367	3,925
	決算額	5,393	5,267	7,104	5,348	2,629
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		800 / 0				



実 績	実 績	若者活躍に関する事業の実施 8回 地域活性化スクール（しゃべり場、エキフェス） 居場所づくり（ワークショップ） 若者実践グループ（MKサークル） STEAM（講演会2回、ワークショップ、マンガ教材研究型授業プログラム）
	効 果	若者自身が地域住民や市職員と関わりながら地域課題の解決に取り組む活動を支援したことで、若者が地域に関心を持ち、他の機会においても積極的に地域と関わるようになった。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	若者活躍に関する実施事業（プログラム）数（回）	目標値			18	10
		実績値			7	8

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	若者活躍に関する事業に関わった若者の数（人）	目標値			375	100
		実績値			357	104



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	活動指標がプログラム数であるため実施事業数は目標を下回る数値となったが、各事業で複数回の活動やイベントを実施しており内容が充実していたため、十分に若者活躍に繋がっている。実施事業の数としては適切であるため、事業の構成を変更したため目標値も18回から10回に見直した。デジタル関連の事業について内容を充実させるために回数を減らしたことにより目標より少ない開催数となった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	全ての事業を予定通り行うことができた。事業の構成を変更し成人式を別事業とする。併せて地域活性化スクール事業の中身やSTEAM事業の在り方についても大きく変更するため目標値も375人から100人に見直し達成することができた。 R7から後期基本計画KPIの「市が開催する若者に向けた取組に関わった若者の人数」と同様にする。 若者活躍に関する事業のとりまとめとして位置づけ新たに設置予定の居場所での取り組みを中心に行うため。
	実績からR07年度の 事業の方向性	引き続き、若者の活躍を通したまちづくりを推進するため、若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援する。併せて、R7年度から新たに若者の居場所づくり等の取組を進める。未来を担う若者たちが地域への愛着を持つことができるよう、すべての若者が安心してすごせる居場所を設置し、若者が継続的に地域活動を行うことが出来るようにする。居場所で行う事業として若者デジタル人材育成事業を入れるため、事業統合する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大 事 業	B1	6 つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を								
小事業	06	大学との連携推進事業		目標年度	令和6年度						



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	若者の市外への流出が問題となっており、魅力あるまちづくりが課題となっている。魅力あるまちづくりへの課題解決には当事者（市民・職員）以外の視点として大学等と連携することが必要となっている。					
対 象	大学及び、全国の大学生や市民					
目 的	行政が抱える市民生活の課題とニーズを大学の教育研究による社会貢献によって課題解決や再認識することを目的とします。また、大学生の交流人口を増やし、若者から見た魅力のある街として全国に広めていきます。					
概 要	さまざまな地域課題を解決するため、首都圏及び地域の大学（早稲田大学、名城大学、中部学院大学、岐阜大学、東海学院大学など）との連携事業を実施。大学の持つ学術資源や大学生の柔軟な発想を活用した地域課題の解決に向けた事業を行う。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,828	1,628	1,628	1,592	118
	決算額	218	874	1,202	1,175	10
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		100 / 0				

実  
績実  
績評  
価  
分  
析評  
価  
分  
析評  
価  
分  
析評  
価  
分  
析

実 績	岐阜大学：地域協学センター事業への参加（ひとづくり課）教員の派遣（まちづくり課） 中部学院大学：大学への講師派遣（こども未来課） 岐阜聖徳学園大学・短期大学部：地域連携協議会への参加（ひとづくり課） 正眼短期大学：学校紹介・受験案内のチラシ配布（自治会回覧）2回
効 果	協定締結済みの大学等の協力を得て事業を行うと共に、大学への協力を行うなど連携を図ったことにより、市及び市民が知識を深める機会を得た。さらに、大学への講師として職員を派遣することで学生が美濃加茂市に関心を持つきっかけとすることができた。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	講師派遣（中部学院大学）、広報活動への協力（正眼短期大学）を行うことができた。提案を増やすようなアプローチが出来ていなかったため、提案が2件のみであり目標達成できなかった。 大学や学生からの提案を受け身で待つだけではなく提案しやすい環境をとることも必要である。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	コーディネーターの派遣、教員の派遣（岐阜大学）、大学への講師派遣（中部学院大学）、地域連携協議会への職員派遣（岐阜聖徳学園大学）、広報活動への協力（正眼短期大学）を行うことができた。 行政側からのアプローチが足りておらず、受け身でいたため達成できなかった。
実績からR07年度 の事業の方向性	引き続き、協定を締結している大学との協力を進めると共に、新規事業等について検討を進める。R7年度は、来年度から行う居場所事業等を活用していきたい。また、地域連携会議で連携できることを大学側にPRしていきたい。 「美濃加茂市ふるさと納税学校応援補助金」を創設し、大学等の事業運営をサポートする。大学などの事業運営を支援することにより、地域での活動や交流が促進され、学生や教職員が地域住民と共同でプロジェクトやイベントを実施できるようになる。このような取り組みが地域活性化などを進め、豊かな地域づくりにつながる意義を持つ。

ア  
ウ  
ト  
プ  
ットア  
ウ  
ト  
カ  
ム

活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
大学及び学生からの提案実現実績	目標値	3	2	2	3	3
	実績値	5	2	2	3	2

K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
大学機関及び学生との連携事業数	目標値	4	4	4	6	6
	実績値	8	5	4	6	5

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を								
小事業	07	青少年健全育成推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	急速に変化する子どもを取り巻く環境に対して、子育てに関わる大人たちが十分に 対応できていない。地域社会での協力が希薄であるため、子育てを親だけでなく地 域全体で支えるという意識がまだ十分に浸透しておらず、子どもに安心できる環境 を提供することが難しくなっている。その結果、犯罪や非行の増加、不登校や家庭 問題が顕在化しやすくなっている。このような課題に対し地域住民が一体となって 取り組むことが求められている。				
	対 象	市民、青少年、青少年の健全育成に関わる各団体				
	目 的	市民との協働により、青少年の健全な成長を支援する。				
	概 要	青少年の健全育成を進めるために、各団体との連携を図り事業を実施します。 ・青少年健全育成市民会議 少年の主張大会(6月)、青少年健全育成該当啓発(7月・11月) みのかもこどもをたくましく育てるつどい(11月) ・少年センター 定期補導、夏休み特別補導、夏祭り特別補導 ・子ども会 チャレラン、子ども会のつどい、ジュニアリーダーズクラブ活動				
	事 業 費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				2,769	2,701
決算額					2,766	2,494
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		600 / 0				

アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	青少年の健全育成活動実施回数（ 回）	目標値				90	90
		実績値				95	93

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	青少年の健全育成活動に関わった 人数（人）	目標値				450	450
		実績値				347	360



実 績	実 績	・青少年健全育成市民会議 役員等20人 ・青少年の主張大会（6月）、青少年健全育成街頭啓発（7月、11月） みのかもこどもをたくましく育てるつどい（11月） 参加者188人 ・少年センター役員等20人 定期補導、夏休み特別補導 ・子ども会、役員等41人 ・ジュニアリーダーズクラブ活動 参加者65名
	効 果	市民会議主催行事等で青少年の健全な成長を地域で支える意識を広げるこ とで、青少年を多くの人が見守り育てる環境を整えることができた。 また、その活動が地域の青少年が交流する機会を作り、地域に関心を持ち 積極的に交流するようになった。「少年の主張」参加者アンケートでは、 大変良かった、よかったの割合が8割を超え参加された方は満足されてい る。また、補導委員の会議では、地域の子どもたちと直接関わりをもてる 活動に意義を感じている声が多数ある。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	巡回補導等の活動を定期的実施しつつ、各種事業を実施することで目標 値を上回ることができている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	実施した行事については青少年育成に効果のある内容ではあるが、市民に 十分に内容が伝わらず参加者が集まらないなど、コロナ禍で途切れた悪い 面が解消できていない。 子ども会の行事について悪天候で中止となり目標達成に影響した。
	実績からR07年度 の事業の方向性	実施する事業について、広報やホームページだけでなく、SNSや学校に 協力を得て子どもを持つ家庭への積極的な周知を行うなどして参加者を増 やす。 周知の際には、行事の内容と対象者がより明確となるよう的を絞って行う 。 子ども会の行事については、参加者が少なく中止になったものについて再 検討とする。役員だけではなく2次元コードを用いたアンケートなども行 い、より多くの方が参加したい行事を行う。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					目標値	500人 40.0%
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を								
小事業	08	成人式推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化の影響で若者が地域に関わる機会も少なくなっている中、若者が地域に愛着を持ち住み続けるために、地域で成人を祝い、若者が地域に関わるきっかけを作ること、未来の美濃加茂市のために重要である。				
	対 象	当該年度に20歳となる市民及び市に所縁のある者				
	目 的	若者を地域として祝うことで成人としての自覚と共に美濃加茂市への愛着を感じてもらうきっかけとする。				
	概 要	美濃加茂成人式の開催及び実行委員会の活動支援				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額					3,088
		決算額				2,484
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		300 / 50				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	実行委員会及び計画、演出に参加した人の数（人）	目標値					10
		実績値				25	6

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	成人式に参加した人の数（人）	目標値					300
		実績値				438	483



実 績	実 績	実行委員会の計画、実行に参加した人の数 6人 実行委員の補助として参加したOBの数 8人 成人式に参加した人の数 483人
	効 果	若者が自ら企画し、実行することで地域への愛着を形成し美濃加茂市に住み続けたい、関わり続けたいと思うようになる。様々な活動があり忙しい時期でしたが、オンラインの参加も可能で地元にいなくても委員になることが出来よかったとの声あり。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	広報での募集を行ったが、応募が少なかった。募集の方法がよくなかったと思われる。SNSの活用や以前の事業で関わりのあった子に声をかけるなどすることも必要であると考えている。実行委員会に参加した人の数は少なかったが、リモートで開催するなど工夫しており、遠方で参加できないと考えていた子にも声をかけできる体制ができた。
	K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	参加人数は多く目標を達成できた。SNSなどで発信したため、昨年度の様子等も確認でき参加を促進できた。次年度から、参加人数だと年により新成人の人数が違い、指標には適さないため、成人式に参加する人の割合（％）に変更。
	実績からR07年度の 事業の方向性	市で行う若者が関わる事業すべてと連携し関わる人を増やしていきたい。子ども会、JLC、地域活性化スクールやR7から始まる居場所に集まる若者がつながり続けることができるような仕組みを居場所の運営事業者や関わっている若者と一緒に考えていく。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援							
小事業	14	若者デジタル人材育成事業		目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	若者がプログラミングやデジタル技術に触れる機会が地方では十分でなく、今後デジタル技術を活かした新たな業種が増えていくことが予想される中、美濃加茂市においてもデジタル技術を将来を見据えた関心ごととしてとらえる機会を提供することが重要である。				
	対 象	市内小学生から高大学生までの希望者				
	目 的	デジタル技術への関心を高め、知識や技術を身に着けた若者を育成する。				
	概 要	「若者がパソコンを自由に使用し、デジタル技術の指導が受けられる場所や機会」を設けることの方向性を調査するため、デジタル技術を活用したものづくりやD Xを、若者が見学及び体験する事業（講座や見学会など）を実施し、そのニーズを探る。その調査結果を元に、若者のデジタル技術の向上を目的とした事業を展開していく。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				1,000	990
決算額					976	761
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		100 / 0				



実 績	実 績	TikTokerも使うツール「CapCut」での動画編集講座 参加者数7人
	効 果	昨年度事業の参加者のアンケートで多くあがった動画制作を今年度事業として行った。フィールドワークを通じた制作をすることで、動画制作を1から体験でき、地域の若者がIT技術について知る機会となった。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	講座の参加者数	目標値				60	70
		実績値				36	7



アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	もっとデジタルに触れたい、学びたいと思う若者（保護者等を含む）の数（割合）	目標値				80	80
		実績値				73.3	85

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	目標値に届かなかった要因としては、開催日の設定や講座の周知不足が考えられる。対策として、より多くの地域の若者に向けて、開催日を複数設けるなどの対応が必要であったと考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	多くの参加者からはまた参加したいという声があがった。目標値を超える結果となったため、若者のニーズに合った事業であったと評価できる。この事業を実施するにあたり、単にデジタル講座を実施するのではなく、地域住民、企業と若者の関わり、ひいては、こういった関わりが若者の居場所づくりにつながる実験的な意味合いがあり、そういったところでは、単に受講者数とすれば多くはないが、現在準備中の若者の居場所作りをはじめとする若者活躍事業のヒントとすることができた。
	実績からR07年度の 事業の方向性	本事業としては終了となるが、別事業の中で開催を予定している。上記の結果を踏まえた事業手法や内容で実施を計画する。令和7年度から若者と未来をつなぐ事業に統合し、外部委託事業に若者を対象としたデジタル視点の講座を含めることとしている。